平成 30 年度文部科学省委託「道徳教育改善・充実」総合対策事業

福山市立鳳中学校　公開研究会

＜研究主題＞
「自ら感じ，考え，行動化できる生徒を育てる道徳教育の創造」

＜めざす生徒像＞
「自己の夢や目標の実現に向け，自らを律しつつ，果敢に挑戦しつづける生徒」　重点

＜育成する力（21 世紀型“スキル＆倫理観”）＞

育成する力	１学年	２学年	３学年
思考力・表現力	○筋道を立てて考え，相手がわかりやすく，自分の考えを伝えることができる。	○根拠を明確にして考え，理由を明らかにして自分の意見を伝えることができる。	○論理的に考え，他者の考えを尊重しつつ，自らの意見を主張することができる。
人との関わり（他者を理解し関わる力）	○TPO を意識して，話したり聴いたりすることができる。 ○周りの仲間と協力して行動できる。	○TPO を意識して，話したり聴いたりすることができる。 ○他者や集団の為に，自ら行動できる。	○TPO を意識して，話したり聴いたりすることができる。 ○他者や集団の為に，自ら考え主体的に行動できる。

道徳の授業づくり，授業改善を通して，新学習指導要領を踏まえた全教科の授業改善

主体的･対話的で深い学びの実現

道徳性の高まり

道徳的価値の理解

生徒の主体的な思考

教師，生徒が共に主体的に取り組む道徳教育の推進
- 組織的に取り組む授業づくり
- 思考を深める問いの工夫
- ローテーション道徳の実施

「特別の教科 道徳」における評価の在り方の研究
- 道徳通信を毎時間発行
- 座席表の活用
- 学期ごとの振り返りシートの活用

学びを行動化につなげる道徳教育の実施
- 道徳通信・道徳コーナーの活用
- カリキュラム・マップを活用した「系統的な道徳の時間」の実践

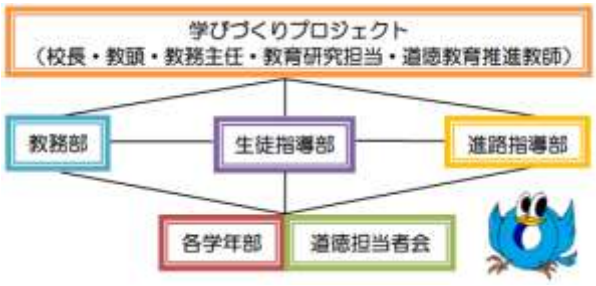
研究の概要

1　教師，生徒が共に主体的に取り組む道徳教育の推進
　・「考え，議論する道徳」の授業の実施
　・学びを行動化につなげる道徳教育の実施
2　「特別の教科 道徳」における評価の在り方の研究

検証の視点

○道徳教育に対して教師，生徒が共に主体的に取り組めているか。
○「考え，議論する道徳」が実施出来ているか。
○思いやりの心が高まっているか。
○道徳の授業での学びが実践に結びついているか。

校内の研究推進体制



今年度の研修計画

4月	校内道徳教育推進委員会発足
5月	生徒・職員アンケート実施①
6月	第１回広島県道徳教育研究協議会 授業参観日（道徳） 小中合同研修会 先行授業・道徳校内研修 （道徳研究授業・31R）
7月	先進校視察
8月	道徳校内研修（道徳理論研究） 先進校視察
9月	先行授業・道徳校内研修 （道徳教育実践研究委員会・12R）
10月	生徒・職員アンケート実施② 教材分析・指導案検討・模擬授業 公開研究会（各学年１学級）
11月	先進校視察
12月	生徒・職員アンケート実施③
1月	校内研修（今年度のまとめ）
2月	第２回広島県道徳教育研究協議会 報告書作成

教師，生徒が共に主体的に取り組む道徳教育の推進

昨年度から継続

組織的に取り組む授業づくり

教材を通して考えさせたい道徳的価値やねらいに迫るための発問への理解を職員全員で深める

昨年度から継続

思考を深める問いの工夫

① 課題意識を持たせる
② 考えを深めさせる
③ 自分事として捉えさせる

今年度から新規

ローテーション道徳の実施

担当する教材を各学級で行い，教材研究につなげる

指導と評価の一体化

「特別の教科 道徳」における評価の在り方の研究

昨年度から継続・改善

道徳通信を毎時間発行

載せた生徒を名簿へ記録

今年度から新規

座席表の活用

授業中の生徒の様子や発言を記録

今年度から新規

学期ごとの振り返りシートの活用

学期ごとのまとまりの中で生徒の学びを把握し，生徒の道徳性の高まりに関わる評価に生かすとともに，授業改善へとつなげる

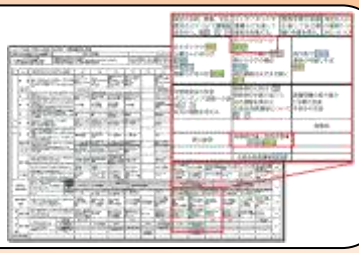
学びを行動化につなげる道徳教育の実施

昨年度から継続・改善

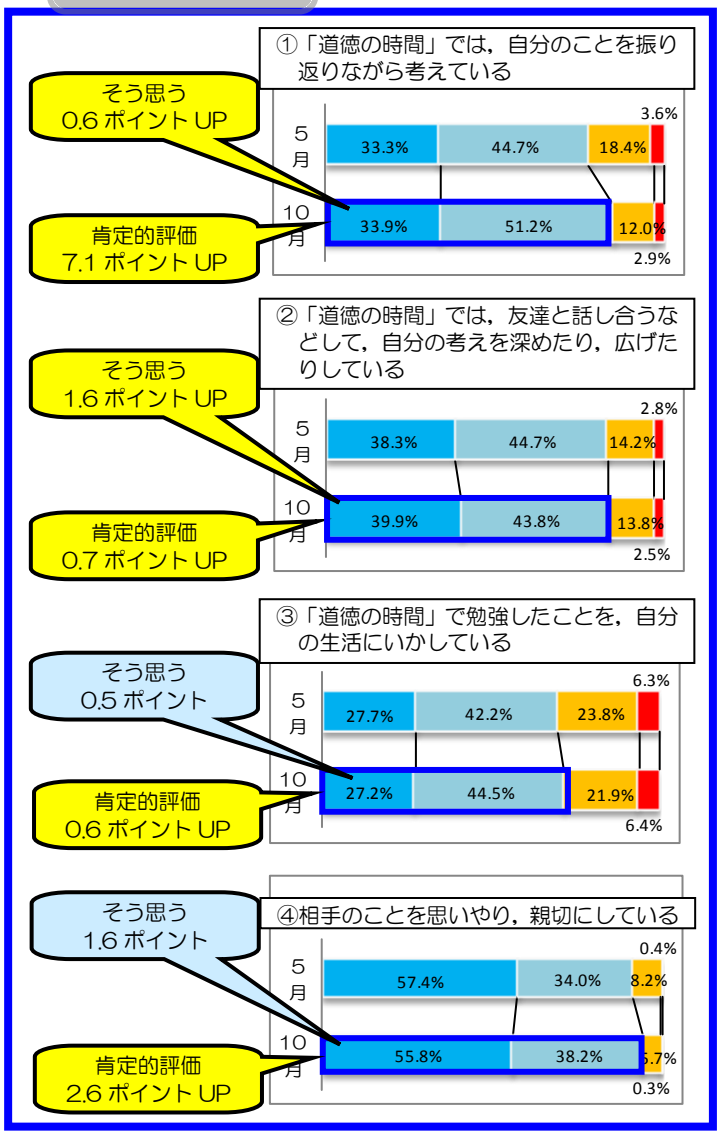
道徳通信・道徳コーナーの活用

昨年度から継続・改善

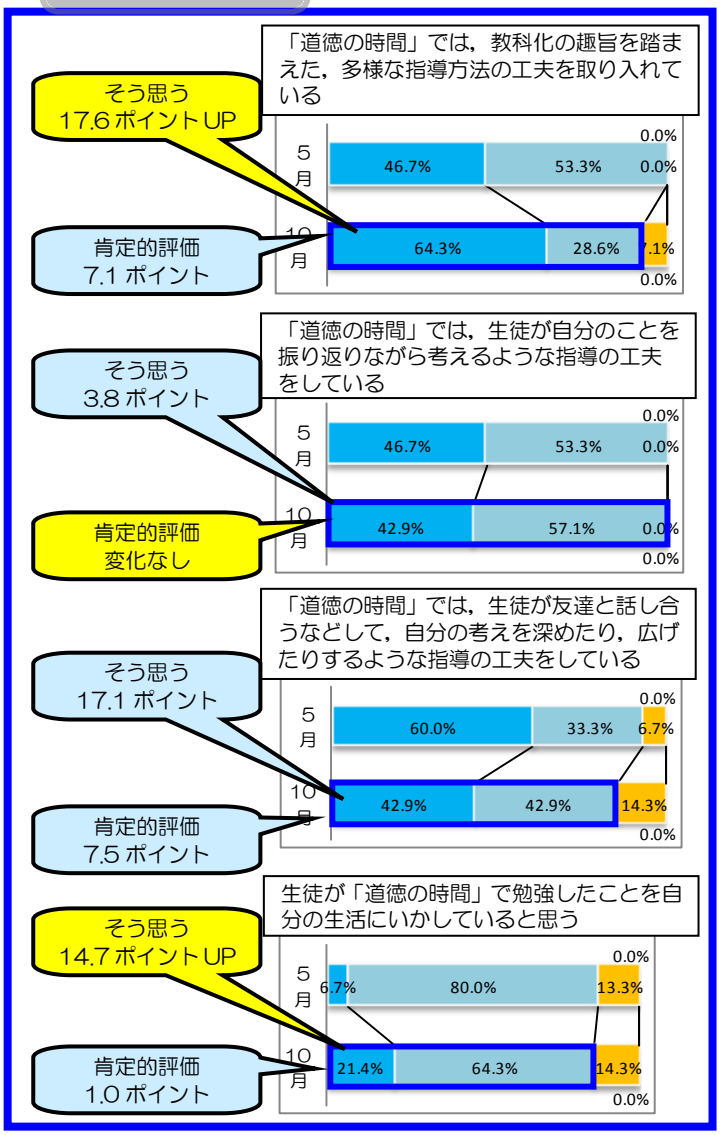
カリキュラム・マップを活用した系統的な道徳の時間の実践



生徒の変容



教師の変容



（表１）<2018年度３年生の昨年度（２年生時）と今年度（３年生時）の１０月の比較>　（%）

	①の質問項目		②の質問項目		③の質問項目		④の質問項目	
	肯定的	否定的	肯定的	否定的	肯定的	否定的	肯定的	否定的
昨年度（２年生時）	67.7	32.3	68.7	31.3	60.6	39.4	86.9	13.1
今年度（３年生時）	77.8	22.2	77.8	22.2	71.7	28.3	92.9	7.1
比較結果	+10.1	-10.1	+9.1	-9.1	+11.1	-11.1	+6.0	-6.0

（表２）<2018年度２年生の昨年度（１年生時）と今年度（２年生時）の１０月の比較>　（%）

	①の質問項目		②の質問項目		③の質問項目		④の質問項目	
	肯定的	否定的	肯定的	否定的	肯定的	否定的	肯定的	否定的
昨年度（１年生時）	84.3	15.7	77.1	22.9	72.3	27.7	91.6	8.4
今年度（２年生時）	89.3	10.7	82.1	17.9	76.2	23.8	95.2	4.8
比較結果	+5.0	-5.0	+5.0	-5.0	+3.9	-3.9	+3.6	-3.6

（表３）<2017年度と2018年度の１年生の５月と１０月の変容の比較>　（%）

	①の質問項目		②の質問項目		③の質問項目		④の質問項目	
	肯定的	否定的	肯定的	否定的	肯定的	否定的	肯定的	否定的
2017年度	-8.7	+8.7	-15.9	+15.9	-16.1	+16.1	-6.1	+6.1
2018年度	+3.3	-3.3	-1.9	+1.9	-8.5	+8.5	-2.9	+2.9

成果と課題

生徒

○道徳の時間で扱う道徳的課題を自分事として捉え，自分のことを振り返りながら考える生徒の割合が増えた。また，友達と話し合うなどして，自分の考えを深めたり，広げたりしようとする生徒の割合が増えた。「①課題意識を持たせること」「②考えを深めさせること」「③自分事として捉えさせること」の３つをポイントとして「問い」の在り方について研究を重ね工夫してきたことが，「自分のことを振り返りながら考える生徒」「友達との話し合いにより，自分の考えを深め，広げる生徒」の割合の増加につながったと考えられる。

○道徳の時間で学んだことを，自分の生活にいかそうとする生徒の割合が増えた。これについては，教師側の意識の変化としても「生徒が『道徳の時間』で勉強したことを自分の生活にいかしていると思う」という質問項目について，「そう思う」と回答した割合が 14.7 ポイント上がっている。道徳通信を毎時間発行し続けたことや，道徳コーナーを設置し，道徳の時間に学んだことを授業だけで終わらせずに，日常生活の中でも意識できる環境を作ったことが成果につながったと考えられる。また，他教科等の指導において道徳の時間での学びを関連させた指導を行ってきたことも成果につながったと考えられる。

○１年生の結果（**表３**）を見ると，昨年度と同じようにほとんどの項目で肯定的評価をしている生徒の割合が減っている。１年生の結果が昨年度と同様にほとんどの項目で低下しており，変容結果の傾向としては昨年度と同じである。このことから，昨年度の考察で挙げた「メタ認知能力の高まりにより，自分について細かく振り返ることが出来るようになったため，肯定的評価をしている生徒の割合が低下した」ということが裏付けられたと思われる。また，低下した割合を昨年度と今年度で比較すると，今年度の方が低下している割合が小さいことが分かる。これは，生徒の実態も考えられるが，昨年度からの授業改善の積み重ねが大きく影響していると考えられる。さらに，変容結果として，１年生は下がっているが，２年生，３年生それぞれについて昨年度との比較結果（**表１，表２**）を見ると，どちらの学年も１年間での道徳性の高まりが見られる。このことからも，２年間で取り組んできたことが効果的に働いていると考えられる。

▲全体的に意識調査の結果，肯定的評価の割合が増えてはいるが，増えた割合を見ると，大きな変化にはなっていない。これは，生徒の思考を深める「問い」（考えたくなる「問い」・新たな気付きのある「問い」）としての在り方が不十分であり，深めるものとしてはまだ浅いものになっているためということが考えられる。

教師

○「多様な指導方法の工夫を取り入れている」という質問項目について，「そう思う」と回答した割合が 17.6 ポイント上がった。昨年度から継続して組織的に取り組んできたことにより，職員全員が教材を分析する視点を養うとともに，多様な指導方法に対する理解を深め，授業改善を積み重ねてきたことが，結果につながったと考えられる。

▲生徒と教師それぞれにおいて，関連する項目を見ると，生徒側は肯定的評価の割合が上がっているが，教師側の割合は下がっており，生徒の意識と教師の意識との間にズレが生じている。より授業を厳しく評価する視点が養われた結果，教師側の肯定的評価の割合が下がったと考えられる。その結果，授業改善へとつながったため，生徒側の意識の変化としては肯定的評価の割合が上がり，生徒と教師との間で意識にズレが生じたと考えられる。

研究のまとめ

昨年度から「自ら感じ，考え，行動化できる生徒を育てる道徳教育の創造」という研究主題のもと，様々な取組を行いながら研究を進めてきた。研究を進めていく中で，教師，生徒が共に道徳の時間に意欲的に取り組もうとする姿が見られるようになった。また，道徳の授業づくりを通して培ったノウハウを自分の担当教科の授業改善に役立て，問題解決的な学習を取り入れた授業を実践した教員もいた。生徒からは，人権作文の中で「命についてこんなにも色々と考えるようになったのは，道徳の授業を通して様々なことを考えるようになってからです。」といった記述が見られるなど，道徳の時間が生徒の感じ方，考え方に効果的に働いていると思われる部分もあった。さらに，保護者からの学校評価アンケートでは，「鳳中は生徒の道徳性を伸ばす為に努力している」という質問項目に対して 92.2%の保護者が肯定的評価をしている。また，「子どもを通わせてよかったと思っている」という質問項目に対しては 96.4%の保護者が肯定的評価をしている（前年度 87.8%）。これらのことから，本校で取り組んできたことが生徒，教師だけでなく保護者の意識の変化にもつなげることが出来たと捉えている。しかし，授業の姿としては，「考え，議論する道徳」「生徒が主体的に課題を見つけ，自分たちの話し合いから深めていく道徳」の姿になりきれていないという課題がある。生徒の思考を深めるための中心発問や問い返しを主に研究してきたが，生徒と教師の対話が多く，生徒同士の対話から課題や新たな気付きを見つけ，本時の道徳的課題に対する納得解を見出すような授業にはなっていないのが現状である。生徒自信が課題を見つけ，生徒同士の対話により理解を深め，道徳性を高められる授業を全教職員が実践出来るように，これまでの取組を踏まえながら今後も研究を継続する。

今後に向けて

○教師の授業力向上への取組

①組織的に取り組む授業づくり（継続）
②「教材分析シート」の活用（新規）
③全教師によるローテーション道徳授業の実施（改善）
④思考を深めさせるための「問い」の工夫（継続）
⑤必然性を持たせる「問い」や授業展開（新規）

○評価への取組

①定期的な道徳通信の発行（継続）
②ポートフォリオの積み重ね（継続）
・毎時間のワークシートの蓄積
・授業中の生徒の様子の記録
・学期毎の振り返りの蓄積

○道徳の学びと生活や他教科等との学びをつなげる取組

①各教科の学習指導要領の整理（改善）
②教科書の使用に伴う道徳の時間と他教科等とのつながりを意識したカリキュラム・マップの改善（改善）
③特別活動やボランティア活動等，道徳の時間における学びを関連させて生かせる場の設定（継続）
④細かな評価の積み重ねと道徳通信による生徒の道徳的行為の紹介（継続）
⑤全教科，教育活動において学びに必然性を持たせる取組（新規）